

白川愛

の活動報告

区議2期目がスタート 今年1年の活動報告

わたし、容赦しないので!
聞く母性。

しらかわあい

能登半島地震

この度の令和6年1月1日に発生した能登半島地震により犠牲になられた方々に謹んでお悔みを申し上げるとともに、被災されました皆様、ご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地におきまして救済と復旧・復興支援等の活動にご尽力されている方々に深く敬意を表します。被害を受けられた皆様の安全と1日も早く平穏な生活に戻られることを心よりお祈り申し上げます。

目黒区議会では、1月11日議員有志による街頭募金活動を実施。皆さまからの温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。お預かりした支援金（街頭募金などによる支援金575,745円）は石川県東京事務所に、議員有志からのお見舞金（176,000円と議長交際費24,000円）は1月29日に目黒区を訪問された金沢市議会議長へお渡しました。



災害大国ニッポンにおける 地域防災の在り方

大地震、超大型台風やゲリラ豪雨といった極端気象など、近年頻発する自然災害による被害は、さらに甚大さを増しています。大規模自然災害の発生にも耐えうる自治体運営は現在、そして次世代の人々が安心して生きていく社会の実現を目指す上で重要な課題です。

目黒区では令和6年4月から機能別の組織体制による目黒区災害対策本部の運営が開始されます。本区ではここ数年で外部人材の登用等が行われるようになり様々な施策でその効果や見直しが加速しています。

これまでの目黒区は通常の行政組織と同様の組織体制で目黒区災害対策本部を運営していました。しかし、通常の組織体制で本部運営を行うことが果たして災害時に有効なのか？これは被災自治体の例などにより度々指摘されてきたことでした。そこで、より効果的で即応性の高い災害対応を実現するため、ICS（①指揮・監督②情報・作戦③後方支援④庶務⑤実行）を有した組織を対応業務ごとに編成し、運営する手法を用いた機能別組織体制に見直すこととなりました。

行政視察

他の自治体で見聞きしたことを目黒区にどうアジャストするか



▲委員会視察で訪れた震災遺構 福島県双葉郡浪江町立請戸小学校にて

ペット同行避難と同伴避難の違い

福島県（福島市）への行政視察を経て改めて、ペット同行避難について考えさせられました。現在の目黒区はペット同行避難しかできません。

※ペットの同行避難とは、災害の発生時に飼い主が飼養しているペットを同行して避難場所まで安全に避難することを言い、避難所でペットを人間と同室で飼養管理することを意味するものではありません。



大規模な災害時には、多くの被災者が長期にわたり避難生活を送ることになります。この中には、犬や猫などのペットを飼養する被災者もいれば、ペットを飼養しない被災者もいます。東日本大震災では、大規模な地震や津波、それに伴う原子力災害が発生し、甚大な被害を及ぼしました。発災時に住民は緊急避難を余儀なくされたため、自宅にとり残されたり、飼い主とはぐれたペットが放浪したりする例が多数生じ、飼い主とペットが共に避難できた場合でも、避難所では動物が苦手な人や、アレルギーの方を含む多くの避難者が共同生活を送るため、一緒に避難したペットの取扱いに苦慮する例も見られました。

このような教訓から国は、自治体が地域の状況に応じた独自の災害対策マニュアルや、動物救護の体制を検討する際の参考となるように、飼い主の責任によるペットとの同行避難を基本にした「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を平成25年6月に策定しました。このような国の動きに連動して目黒区でも、ペット防災の手引き『災害時における地域避難所のペット受け入れガイドライン』や『ペットとわたしの防災ハンドブック』を作成し、皆様への周知に努めています。



ペット同伴避難所の必要性

昨年10月、現在所属する企画総務委員会の行政視察のため福島市役所を訪問。令和3年9月1日に開設された福島市のペット同伴避難所について、現地で調査研究を行いました。

目黒区と福島市は人口比も一般会計予算規模も犬の登録頭数も同程度。大きな違いは、自治体面積が目黒区の約50倍であること。そして福島市は車社会であること。

福島市では、市内に39か所ある指定避難所が**ペット同行可能な避難所**でした。しかしながら、避難所においては、日頃から家族の一員として暮らしているペットの避難場所が駐輪所や軒下などであり、飼い主にとってはこのことが、**避難を躊躇する一因になっている**と推察されました。そこでまずは、市内に1か所、ペットと一緒に避難できる避難所が必要だと考え、市民に躊躇なく避難をして欲しいという思いから、ランドマーク的に福島市の勤労青少年ホーム体育館を活用して**ペット同伴避難所**が開設されました。

外は大雨なのに同行避難所に行けば、自分だけは避難所の中で、家族同然のペットは軒下と考えれば、これまでペット同行で避難所に訪れた市民がいなかつことにも納得ができます。我が家家の近隣の方々からも、「いざという時に避難が必要になってもペットがいるから避難を躊躇する」という声が聞かれます。

POINT

避難のしづらさ解消のために

区民に躊躇なく避難をしてもらう



ペットを置いては避難できないという人のために、
人間が避難できるようにするために、
ペットと一緒に避難できるようにする！

結果的に目黒区住民の避難のしづらさ解消につながる。そう考えれば、土地や場所が十分に確保できない目黒区でも、防災の取り組みとして、地域避難所の全てとは言わないまでも、区内に先ずは1か所、ペット同伴避難所を開設する必要性を感じます。



▲ 福島市ペット同伴避難所(画像は福島市より)

体育館面積は500m²にペット同士のトラブル防止や吠え声対策として2m間隔でテント24張り分を確保。ペット同士で気になると吠えるなどのトラブルになるため視界を遮るように工夫。テント内にケージを設置。ケージにペットを入れた状態で同じテント内で飼い主(世帯)と過ごすことができる。テント内はプライバシーが保たれてはいるが、テント内でペットを放し飼いにすることやリードを付けないなどの行為は禁止している。

白川愛 プロフィール

目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小学校卒、英国ポーラムホールスクール中・高校留学、大学入学資格検定取得、日歯短期大学卒、歯科技工士、慶應義塾法中退、外資系金融機関勤務、ウォルトディズニージャパン勤務を経て(株)ZubitsJapan起業、東京都女性ベンチャー成長促進事業第1期生、目黒区議会議員2期。3児の母(男子大学生と小学女子二人)

公園をとことん活用

議会質問



私、白川は2期目に挑戦するにあたり、区民の皆様に

区民のウェルビングの向上を目指す!!

とお約束し、現在議会活動を継続させて頂いております。この1年、白川愛の独自の調査と質問により一歩一歩、その議会質問は実を結んでいます。

※ウェルビングとは、区民の幸福感を意味するもので、自分らしさ、地域における人間関係、都市景観や都市機能等の因子からみた概念です。

※公園とは公のものであり、利用者の利便を向上させることが第一の目的

1 公園改修に際して出入口になぜ、こんな形状の車止めを目黒区は採用したのか？(令和5年6月議会一般質問から)



改修後 通行可能な最大幅が92cm

三角山公園

バイク等の乗り入れ放置が問題に。区は張り紙などで警告をしてきましたが、放置駐車が改善されなかったため、バイクが入れないような形状の車止めに改修したとのこと。

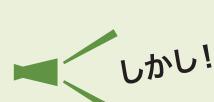
改修後、狭くて
通れなくなった…



輸入品も多く、多様化しているバギーと車いす



目黒区は、「JIS規格で定められた幅は確保しているので問題は無い」と考えているようでした。



しかし!
近年は車いすも、ベビーカーも海外製も多く区内での利用者も多く見かけるようになりました。今後はぜひ、公園改修に際しては規格外の製品があることや、安全対策として他の方法が無いかなど、多角的な視点も取り入れて公園の改良をして頂きたいと要望しました。

！！区有施設は区民のサードプレイス

2 碑文谷公園グラウンドの場外飛球対策問題解消 (令和5年9月決算委員会質問から)

公園利用者、球場利用者、テニスコート利用者、そして近隣保育園の園児の保護者からもグラウンドからボールが飛んで来て危ない。と、その危険性を指摘する声が相次いで私にも寄せられていました。この件に関しては2年以上前から区に訴え続け、**区長に対しては予算要望**もしてきました。そしてやっと、対策が講じられることになりました!!



質問の様子はYouTubeでご視聴頂けます。



これまで、区はホームランボールにだけフォーカスしていた為、防球ネットの高さを全面的に高くするには、**莫大な予算がかかるので難しい**という見解でした。

しかし、白川は**ファウルフライ発生の頻度にも着目**。ホームベース付近の安全対策も含めた安全対策実施の可能性を確認し、区も「場外飛球が引き続き発生している実態は看過できない重要な問題」と認識している事がわかりました。そしてなるべく早急に、できれば**今年度中に公園利用者の安全確保のための対策を講じる**!!と遂に区が動きました。

3 道路の不具合のみならず、LINEを活用した公園の不具合通報が可能に。(令和5年度決算特別委員会の質問から)

道路・公園通報の前に

目黒区が管理する道路(舗装、側溝、雨水マス等)、道路付属物(カーブミラー、ガードレール、街路灯等)、公園内の遊具・樹木などの施設に関する不具合をLINEで連絡する事ができます。

▼目黒区公式ウェブサイトから通報システムの概要を確認できます

LINEでの通報について

▼緊急の場合(道路の陥没、街路樹の倒木等)は電話でご連絡ください

緊急の場合の連絡先はこちら

通報する内容を選んでください

道路通報

公園通報

通報を中止する

これまで公園利用者の方々が、私など身近な議員に遊具(遊具や電灯、トイレ周り、樹木)の不具合や倒木など都度ご連絡を下さっていました。

現在は、LINEを利用して区民の皆様が直接、区に通報できるようになりました。

詳しい利用方法はこちらから



4 白川が区議になって以来トータルで約870m²が公園用地として増えました!!

木密地域を中心に、微増ながらも公園用地取得が着々と進んでいる状況です。「公園は区民一人あたり2m²の目標達成」にコミットする議員の一人として、近年人材の確保が難しいとされている、目黒区の都市整備部、街づくり推進部など土木関連を担う職員さん達の地道な努力に、頭が下がる思いです。

公園用地取得実績

令和元年	目黒本町5丁目	約200m ² を公園用地として取得
令和4年	洗足1丁目	約55m ² を公園用地として取得
令和5年	目黒本町6丁目	約500m ² と115m ² を公園用地として取得

5 目黒区総合庁舎屋上庭園の芝生・キッズパークエリア再整備が実現予定(令和5年3月予算特別委員会質問から)

私、白川は整備から間もなく20年を迎えるとしている、目黒区総合庁舎屋上庭園について質問。整備当初は東京農大の学生さん達の協力もあり、和モダンの屋上緑化の情報発信地となっていたたようだが、経年劣化からタイルの破損や剥がれなども目につくようになっている。他の自治体の緑化事業と見比べても見劣りする感が否めない。

そこで、これを機に屋上庭園のリノベーションなども検討し区のグリーンインフラ整備に関する情報発信の場として活性化し、**もっと区民が積極的に利用したくなるような場にしていただきたい**という提案質問をした内容が来年度予算に反映(830万円)されました!

今後の予定

令和6年7月 事業者決定、再整備始

令和6年10月 芝生・キッズパークエリア再整備完了

再整備イメージ



地域における子どもの多様な居場所づくりを目標に、目黒区総合庁舎屋上の芝生・キッズパークエリアに遊具を設置し、再整備を行うことで、総合庁舎の屋上からの景色を楽しみながら親子でくつろげる空間を新たに創出します。

目黒区議会議員 白川 愛
Shirakawa Ai Official Website

プロフィール 政策 お知らせ 活動報告 ブログ 白川愛を応援する お問い合わせ

愛をカタチに。想いをヒトリに。

ブログ・HP
こちらから



▲ HP

▲ ブログ

▲ 活動報告バックナンバー

「拉致被害者の奪還のため、一丸となりましょう!」
北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会



区民の安全と安心を守るためにスマートシティ目黒を実現

6 火災報知器放置問題解消

(令和5年10月の企画総務委員会)

白川愛活動報告レポートバックナンバーVol.5(HPにて閲覧可能)でもご報告いたしましたが、製造から20年、30年が経った火災報知器の交換を放置していた件は、その後交換費用が予算化され、令和5年10月の企画総務委員会にて施設課は(総合庁舎本館・別館)自動火災報知器(煙・火)1,210個、ガス漏れ検知器17個を全て交換する。受信盤も全部改修、田道ふれあい館についても所管と調整後交換していくと答弁。私の指摘から着々と交換が実施されています。



7 DX推進は旗を振っただけでは上手くはいかない

(令和5年11月一般質問から)

世間に遅ればせながら今、目黒区が必死で進めているのがデジタルトランスフォーメーションです。DX推進の旗を振っただけでは現場は混乱し、日常業務の上に新しい業務を増やす屋上屋を重ねることになりかねません。これまでの区の取り組み状況に照らして、今一度**DX推進はあくまで「区民生活を豊かにする」ためにある**ということを再確認する必要性を感じて的一般質問です。

セキュリティの担保は必ず行っていくことは勿論のこと、区民に負担をかけていた様々な申請ができるかぎり効率化する。業務の改善や効率化により創出したリソースを区民サービスの向上に再分配していくための仕組みづくりがここまで庁内で共有され、進んでいるのか?

①危機管理:「情報漏洩対策・セキュリティ意識教育」

令和5年度も職員による確認漏れや不適切な管理により個人情報が記載された書類の紛失事故や委託事業者によるシステム障害による個人情報漏洩事案が起きていることから常に注意喚起が必要。

②業務整理:「ワンストップサービス可能な業務共有」

行政の事務事業の分類、共有できる業務、共通化できる作業についてはどこまで整理ができているか?

③余力創出:「実行するマンパワーを活かす業務軽減」

既存事業に関連する事務事業に費やしている人件費や減価償却費を含む総コストを把握し、成果との費用対効果を検証し事務事業評価を行う必要性を認識しているのか?

区長の答弁は、職員でなければ扱えない事務を整理し、職員はそこに注力する体制を構築する。区民の利便性向上という視点をもって進める。アウトカム指標を用いるよう努め、目的の達成度合いを可視化できるようにする。施策、事業にDX推進の考えを取り入れ、期間内の達成を目指す。という前向きな答弁でした。

POINT 「成果+プロセス評価」をより明確に

青木区長のトップマネジメントの元で全庁的にこの取り組みを浸透させるためには、そもそも業務量を減らし、効果が上がっていない事業をスクラップしていくないと、一部署だけでアジャイル方式でやっていったのではパッチワークのようになるだけで組織全体に事業の目的やコスト意識が浸透していくかと思います。

昨今の若手職員の離職率の高さも課題です。メンタル不調をきたし長期休暇を余儀なくされた職員数は年々増え続け、R4年度は54名となりました。この目黒区職員の状況を考えると、職員の「やりたい」「できるかも」「やらなきゃ」というモチベーションを引き出すためにも、ワーク・エンゲージメント向上のためにも**「成果+プロセス評価」をより明確にマネジメントサイクルに反映させる必要性**を感じます。

来年度予算

令和6年度の目黒区一般会計当初予算額
1,300億円
(3年連続過去最大)

来年度の目黒区予算規模は過去最大の1,300億円、前年度に比べて約102億円の増額となりました。皆様からお預かりさせて頂く区民税も、前年度に比べ増額となり、区税収入は約3億円増の約491億円となりました。

近隣区の様に目立つ政策や目新しい施策などのいわゆる「目玉政策」と呼ばれるようなものは無く、国や都の補助金を得ながら、着実に計画に沿って駅前再開発、道路整備工事や統廃合による学校施設の更新、区民センターの建替えなどを実施するための事業費や義務的経費と呼ばれるような硬直的な経費がその大半を占めております。そのため、新たな施策や事業に充てられる財源はごくわずかです。



どれもこれも区民生活には欠かせない施策の数々なので、広く薄くの目黒区の予算配分は收支均衡、受益者負担の観点からも否定するものではありませんが、この街の未来像やトップの経営方針が極めてわかりにくい「メッセージ性の低い予算」と感じます。

目黒区は「状況変化に対応し、社会情勢に合わなくなつた事業については絶えず見直しを行い、区民の価値観・ニーズの変化に的確に対応していく」と事業の適切なスクラップを推進していく考え方を示しています。しかし残念ながら、「区民ニーズに応えるための新たな事業に振り分ける予算」を捻出するために事業スクラップが着実に進んでいるように見えません。

何がより優先されるべきなのか、数値で測れないあいまい事業も多く、新たな事業に取り組むにも、なぜそれに取り組まなければいけないのか?トップの強いメッセージが組織全体の共通目標、価値観の共有に上手く繋がっていない印象を受けます。これが20年間もの長きに渡りトップが変わらない安定しきった硬直化した組織の姿なのかと、算編成内容を見ていると改めて痛感します。



「教習所内でフェラーリやランボルギニを慎重に走行させているような区政」とは言い得て妙でありまして、来年度もその言葉がぴったりな目黒区予算編成と相なりました。

自由を守る会

X @aishirakawa1

f facebook.com/aishirakawa.tokyo

地域のことは
地域で決める

会員
絶賛募集中

自由を守る会 白川愛

検索

153-0051 目黒区上目黒 3-6-5 中目ビル 2 階

080-7505-0905

ai@aishirakawa.tokyo

